

あつぎ郷土博物館NEWS2月号

企画展

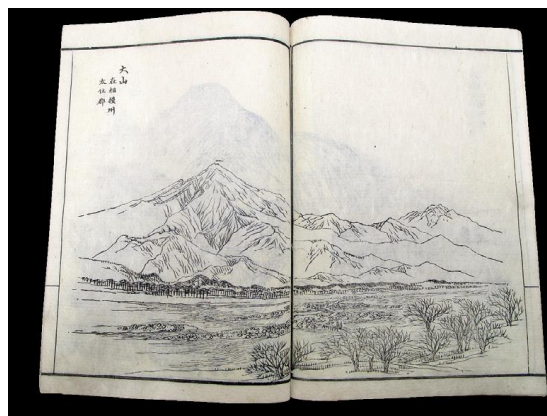
しんぺんさがみのくにふどきこう

「新編相模国風土記稿」が描くあつぎ

地域の記録を紡ぐ意味とは

『新編相模国風土記稿』（以下『風土記稿』）は、江戸時代後期に幕府の地誌編さん事業の一環として、『新編武蔵風土記稿』の後を受けて作られた地誌です。

『風土記稿』の編さんは、村の調査を元に、昌平坂学問所に設置された地誌調所の役人が現地調査をして進められました。厚木市域は、猪飼次郎太郎と内山孝之助、小笠原藤右衛門、朝岡傳右衛門、水野丈之助らが



▲日本名山図会（文化元年=1804）

日本の代表的な山 88 座を描いた地誌

調査と編さんを担当しました。村から地誌調所に提出された「地誌御調書上帳」と呼ばれる古文書が、厚木、妻田、林、温水、七沢、下荻野、上落合に残されています。津久井（現相模原市）は、『新編武蔵風土記稿』に引き続き八王子千人同心が担当し、その草稿が残されており、今回は「地誌搜索問目」を展示します。

天保2年（1831）、厚木を訪れた渡辺華山は、市域内の調査の様子について「游相日記」に興味深い記述を残しています。『風土記稿』編さんにあたる地誌総裁・間宮庄五郎の命によって、厚木の熊野堂（旭町・熊野神社 別当）にも、古文書の書写が仰せつけられました。そのため、「史人」（調査にあたる役人）が多くやってくるので、対応が煩わしくなり、5、6通を写して提出したというのです。歴史を研究する身にとっては、なんとも耳が痛くなる話です。

本展示では、江戸時代に記され、刊行された名所案内や道中記、『風土記稿』編さんのために用いられた資料を展示します。地域が記録され、「歴史」になることの意味、『風土記稿』が地域に果たした役割を紹介していきます。

江戸時代に様々な形で編まれた地域の記録の数々をどうぞお楽しみください。

好評
開催中

●会 期：3月6日（日）まで

●入館料：無 料

※「まん延防止等重点措置」等の関係により、今後も会期変更の可能性があります。詳細は博物館ホームページ等で御確認ください。



2月の博物館の予定

(御注意) 開館・行事は変更・中止になる場合があります。ホームページやフェイスブックを御確認ください。

日	曜日	行 事 内 容	講師等	時 間
企画展『新編相模国風土記稿』が描くあつぎ 令和4年1月15日～				
中止	日	『風土記稿』関連講演会② 『新編相模国風土記稿』の編さんと神奈川県央地域の村々 [講座番号: 2158003] 受付は 1/29 まで	白井 哲哉 (筑波大学教授)	14:00～ 16:00
17、 24	木	古文書講座「初級編 はじめての古文書」	当館学芸員	10:00～ 12:00
19	土	企画展『風土記稿』 展示解説	当館学芸員	14:00～ 14:30
23	水祝	古民家岸邸 雛まつりイベント	会場: 古民家岸邸	10:00～ 15:00
26	土	開館3周年記念講座② 戦国時代のあつぎ 今川氏とあつぎ [講座番号: 2158006] 受付は 2/6 (日) まで	久保田 昌希 (駒澤大学名誉教授)	14:00～ 16:00
27	日	『風土記稿』関連講演会③ 『新編相模国風土記稿』と神奈川県央地域の旧家 [講座番号: 2158004] 受付は 2/19 まで	鈴木 直樹 (中央大学学史編さん室職員)	14:00～ 16:00
28	月	休 館 日		

NEW

あつぎ郷土博物館3周年記念講座を企画いたしましたので、是非御応募ください。

あつぎの戦国時代の様子を著名な先生からお話を伺います。

●第1回目「今川氏とあつぎ」

日 時 令和4年2月26日(土)午後2時から午後4時まで

講 師 久保田 昌希 (駒澤大学名誉教授)

●第2回目「戦国北条家の魅力」

日 時 令和4年3月5日(土)午後2時から午後4時まで

講 師 黒田 基樹 (駿河台大学教授)

●第3回目「武田信玄の小田原攻撃と三増合戦」

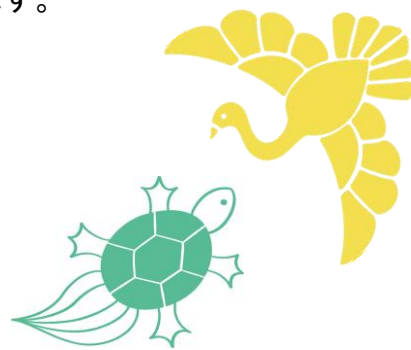
日 時 令和4年3月6日(日)午後2時から午後4時まで

講 師 平山 優 (山梨県教育委員会、武田氏研究会副会長)

●定 員 50人(第1回から第3回を連続で受講できる人・抽選)

●参加費 無 料

●申 込 講座予約システム(No.2158006)及び往復ハガキ(下記住所へ)



(申込み・問合せ) あつぎ郷土博物館

〒243-0206 厚木市下川入1366-4 電話 046-225-2515

Mail 8650-3@city.atsugi.kanagawa.jp

FAX 046-246-3005